

KBC杯高校ハンド

ハンドボールの第14回KBC学園杯争奪第48回県高校春季選手権(主催・県ハンドボール協会、共催・KBC学園、県高体連)は17日、豊見城市民体育館で決勝を行い、男子是那覇西が浦添を31-26を下し、女子是那覇西が23-21でコザを破って優勝した。男子は2年ぶり、女子は13年ぶり。

男女の上位2校と、全国高校選抜大会(24~29日)に出場する男子の興南、女子の浦添、シード決定戦を制した男子の浦添商、女子の普天間を合わせた男女各4校が県高校総体のシード権を得た。

【男子】

▽準決勝

那覇西 28(13-14) 27 浦添商

浦添 37(20-14) 29 コザ

▽シード決定戦

浦添商 44(25-17) 29 コザ

▽決勝

那覇西 31(14-15) 26 浦添

【女子】

▽準決勝

那覇西 32(17-7) 17 普天間

コザ 32(21-11) 28 昭葉付

▽シード決定戦

普天間 27(12-11) 25 昭葉付

▽決勝

那覇西 23(12-9) 21 コザ

那覇西、男女で頂点

猛反撃 関係さえ逆転

男子2年ぶり

男子是那覇西が前半17分までに5点差をつけられながらも猛反撃で逆転した。エースで主将の石原直弥に相手のマークが集中する中、山城東悟が左45度から何度も決めるなど、チーム最多の11得点と活躍した。

序盤は動きが鈍かったが、守備を固め、相手攻撃を抑え込むと、前半残り10分過ぎからは関係プレーがさえわたり、徐々に点差を詰め、14-15で折り返した。

後半に入っても動きは止まらず、本永昌靖の得点で後半12分過ぎに21-21と追い付くと山城、本永らの5連続得点で一気に突き放した。山城は「前半に予想以上のリードを許してしまい、焦ったけど関係や足を使ったプレーで勝つことができた」と胸を張った。

石原、山城以外の選手も力をつけ、準決勝では昨秋の新人大会3回戦で敗れた浦添商を28-27の接戦の末に下して勝ち上がった。県高校総体に向け、石原は「興南の20連覇を阻止して全国総体に出場したい」と力を込めた。(平良吉弥)



男子決勝 那覇西 浦添 後半、那覇西の山城東悟が30点目のシュートを決める。豊見城市民体育館(竹尾智勇撮影)

両サイド 強気の攻め

女子13年ぶり

女子的那覇西は前田杏樹、中村風香の両1年生の左右両サイドからの攻撃がさえわたった。

根間美純寿主将は「両サイドからの強気の攻めで勝つことができた」と2人の活躍をたたえた。前田と中村は「GKの動きをしっかり見極めて得点を決めることができた」と喜んだ。

前半19分過ぎまでは、相手にリードを許した。徐々にペースをつかみ、前田が左、中村が右から相手のマークを外して得点を決め、12-9で折り返した。

後半開始直後、反則で相手に7発スローを与えたがGK天願柚愛の好セーブで流れを渡さなかった。「気持ちで負けずに止めることができた」と胸を張った。

昨秋以降、浦添に3度敗れているが、徐々に点差は詰まってきている。根間主将は「県高校総体では浦添に勝って九州制覇、全国ベスト8を目指す」と力を込めた。



男女優勝の那覇西



女子決勝 那覇西-コザ 後半、那覇西の前田杏樹がシュートを放つ